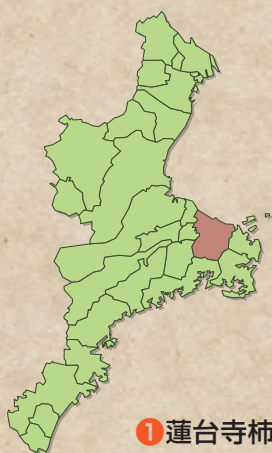


いせ 伊勢市



- ① 蓮台寺柿
- ② 伊勢神宮・式年遷宮とお木曳き
- ③ 宮川堤
- ④ 二見浦
- ⑤ 伊勢根付
- ⑥ 尾崎行雄(弔堂)



特産物

伊勢市

れんだいじがき 蓮台寺柿

伊勢市勢田町の南部山地(豊川町、藤里町、勢田町、桜木町)の丘陵には、蓮台寺柿が栽培されています。この地には鼓嶽山蓮台寺があったので、地域の柿を「蓮台寺柿」とよぶようになりました。その昔、弘法大師が伊勢を訪れた際、この柿を大変気に入り、広く作るように勧めたという逸話が伝わっています。

蓮台寺柿は伊勢の秋を代表する果物で、約300年前から栽培されていますが、病気や害虫に弱く樹木の老化が心配されたので、品種保存のため1958(昭和33)年に伊勢市の天然記念物に指定されました。

まろやかでとろけるような味ですが、実はしぶがきです。9月中旬から11月に収穫し、そのままでは渋いため、洗抜きしてから出荷されています。密閉した脱渋庫に炭酸ガスを入れ24時間置くと、すっかり渋みが抜け、甘くまろやかになります。果実を4つほどにカットした一口サイズの干し柿も生産されています。



蓮台寺柿(伊勢市提供)

■ あなたの地域で作られている果物を調べてみましょう。

歴史

伊勢市

いせじんぐう
伊勢神宮

伊勢市民だけでなく、日本全国の人々から「お伊勢さん」と親しまれている伊勢神宮には、年間約700万人の人々が訪れています。

伊勢神宮の建物は、唯一神明造という、日本最古の建築様式で、ヒノキの白木を用い、平入の高床式の穀倉の形式から、宮殿形式に発展したものです。

現在の伊勢は、この神宮の門前町として発展してきました。古くは西行も「何事のおはしますかは知らねどもかたじけなさに涙こぼる」と和歌に詠んでいます。

江戸時代には「おかげまいり」という集団参詣が流行し、本居宣長【→P38】の『玉勝間』によると、1日に20万人以上が伊勢をめざしたといわれています。

「伊勢に行きたい 伊勢路が見たい せめて一生に一度でも」と伊勢音頭にうたわれているように、伊勢の地は昔から全国の人々のあこがれでした。



伊勢神宮内宮の御稲御倉
(神宮司庁提供)

せんぐう きひ
式年遷宮とお木曳き

伊勢の内宮・外宮では、20年ごとに新しい神殿を造り、装束や神宝を新しくします。これを遷宮とよんでおり、神宮最大の祭りです。

遷宮は今から約1300年前に天武天皇が定めたとされており、持統天皇の時代に第1回が行われて以来、2013(平成25)年で第62回目となります。伊勢の「お木曳き」行事は、1966(昭和41)年に、国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択されています。



陸曳 (御遷宮対策事務局提供)



川曳 (神宮司庁提供)

遷宮に使用される材木(御用材)を内宮・外宮へ運搬する行事を「お木曳き」といい、遷宮の数年前に行われます。内宮へは五十鈴川を利用することから「川曳」、外宮では陸路を利用することから「陸曳」とよばれています。

お木曳きがいつから行われていたかは不明ですが、記録としては室町時代のものが残っています。

■ あなたの町に残っている祭りの起源を調べてみましょう。

名勝

伊勢市

宮川堤

「お伊勢さんほど御大社はないが なぜに宮川 橋がない」とうたわれたように、宮川には明治の末になるまで橋はかかっていませんでした。宮川の源がある大台ヶ原は、日本有数の多雨地帯で、豪雨による洪水が度々起こりました。このことも橋がなかった理由の一つです。【→P48】

橋ができるまで、宮川を渡るには渡し船が利用されていました。度会橋の上流にあったものを「上の渡し（柳の渡し）」、小俣の宮川橋付近にあったものを「下の渡し」、西豊浜町から御園町に渡るものを「磯の渡し」とよんでいました。

宮川は、名勝地として古人により多くの詩歌に詠われるとともに、「下の渡し」を「桜の渡し」と呼んでいます。このことから、この付近には古くから桜の木がたくさんあったことがわかります。

現在堤には1kmにわたって「一目千本桜」といわれる桜並木が続き、人々を楽しませています。1937（昭和12）年には三重県の名勝に、1990（平成2）年には日本の桜名所百選にも選ばれています。

毎年、伊勢の春祭り期間として4月1日から15日まで桜祭りの行事が開催され、人々を楽しませています。



宮川堤（伊勢市提供）

- 県内や日本の桜の名所を調べてみましょう。

名勝

伊勢市

二見浦

二見浦は、伊勢市二見町にある海岸です。伊勢湾に注ぐ五十鈴川の河口に形成された弧状の砂浜海岸で、伊勢志摩国立公園に属し、日本の渚百選にも選ばれています。

立石崎の二見興玉神社内にある夫婦岩は、全国的に有名です。夫婦岩は、昔から日の出を拝む所として知られてきました。5月から7月までの間、夫婦岩の間から日の出を見ることができます。

二見浦は平安朝以来、伊勢の名勝地として知られ、多くの歌にも詠まれました。1936（昭和11）年には県の名勝に、2006（平成18）年には国の名勝にそれぞれ指定されています。また、二見浦海水浴場は、1882（明治15）年に開設された日本で最初の公認海水浴場です。



二見浦（伊勢志摩さきり千選提供）

- 三重県の史跡・名勝を調べてみましょう。

伝統工芸

伊勢市

いせねつけ
伊勢根付

根付とは、身につける物入れの留具とめくとして使われていたものです。印籠いんろうをはじめ、タバコ入れ、巾着きんちやくなどの紐ひもの先に動物などをかたどった根付が使用されていました。素材には木製のほか、象牙や動物の角、玉石等を使っていて、高度な技術による繊細な工芸品です。

江戸時代の文化・文政年間（1804～1829）の頃から、参拝者でにぎわう伊勢では、小さく格調の高い根付は土産物として人気をよびました。旅の無事を祈って、カエルの根付が人気だったそうです。特に地元の朝熊あさまつけは木目が細かく、光沢もよいので最上質の素材として人気がありました。

伊勢根付は、根付師鈴木正直（1815～1890）によって作り上げられました。伊勢市八日市場町の鈴木家に養子に入った正直は、大阪の彫刻家に弟子入りして修行を積み、伊勢に戻って根付師になりました。干支の十二支などの根付のほか、キセルや各種の置物も残っています。

伊勢根付は現在では土産物だけではなく、美術品としての価値も高まっています。



伊勢根付（伊勢市提供）

■ 三重県の伝統工芸品を調べてみましょう。

人物

伊勢市

おざきゆきお がくどう
尾崎行雄（号堂）

尾崎行雄（号堂）は衆議院名誉議員で「憲政の神様」「議会政治の父」とよばれています。神奈川県で生まれ、1872（明治5）年に三重県伊勢市に引っ越し、宮崎文庫英学校に入学しました。

1882（明治15）年大隈重信の立憲改進黨の創立に参加し、1890（明治23）年第1回総選挙で三重県選挙区より出馬し当選しました。以後63年間に25回連続当選し、司法大臣や文部大臣の役職を務めました。また、桂太郎首相を糾弾する演説を行って第一次護憲運動の中心となりました。

第一次世界大戦後のヨーロッパで戦争の悲惨さを見聞して以後は、一貫した軍縮論者となり、大正デモクラシーの進展とともに普通選挙運動を支持しました。

戦後の国会でも活躍して、民主主義の復活と世界平和の確立のために力を尽くしました。31歳から94歳まで、衆議院議員として活躍し、政界を引退しました。

伊勢市に尾崎号堂記念館があります。また、国会前庭の敷地内にある憲政記念館は、尾崎の功績を称えて建設されたものであり、銅像も建てられています。



尾崎号堂記念館（伊勢志摩さり千選提供）

■ 全国的に活躍した三重県にゆかりのある人々を調べてみましょう。